

Coca-Cola East Japan

Sustainability Report



ステークホルダーのみなさまと、



想いをひとつに

コカ・コーライーストジャパングループの想い。それは、飲料を通じて明るい未来を創りつづけること。

私たちは、これまでの常識や価値観を変えることを恐れず、

バリューチェーンのあらゆる領域において、イノベーションとチャレンジに取り組みます。

そして、人びとに新たな感動と驚きをお届けし、より豊かでうるおいに満ちた世界を実現します。

地域社会の人々との結びつきを大切に、サステナブルな社会の発展に貢献することで、

私たちのステークホルダーのみなさまとともに、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。



Index 目次

トップメッセージ	P.3
フィロソフィー	P.5
コカ・コーライーストジャパングループの紹介	P.7

Number One

飲料業界のNumber One企業となる

特集 お客様の飲料パートナーとして	P.9
安全に配慮した製品づくり	P.11
すべてのお客様満足のために	P.12
サプライヤーとともに	P.13
グローバルなビジネスモデルの最高水準を目指して	P.14

Only One

地域社会にとってOnly One企業となる

使った水を自然へ還す	P.15
特集 水を守ることは、森を守ること	P.17
環境保全へむけたエネルギー削減	P.19
地域のみなさまとともに健やかな社会を目指して	P.21
特集 自動販売機を通じた社会貢献	P.23
特集 震災から5年、東北地方の復興にむけて	P.25

Best One

従業員が働きがいと誇りを感じるBest One企業となる

働きがいのある職場づくり	P.27
誰もが輝ける会社を目指して	P.29
マネジメント体制	P.31
財務情報	P.33
製品情報	P.33

コカ・コーライーストジャパ

サステナビリティレポート2015-2016

編集方針

当レポートは、コカ・コーライーストジャパン(株)および関連会社からなるコカ・コーライーストジャパングループのサステナビリティに対する考え方と取り組みをステークホルダーのみなさまにお伝えするものです。

企業理念のビジョンである「飲料業界のNumber One企業となる」「地域社会にとってOnly One企業となる」「従業員が働きがいと誇りを感じるBest One企業となる」において、特色ある取り組みをフォーカスするとともに、この1年間の主な活動をわかりやすく紹介しています。

● 参考にしたガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版」

● 対象期間

報告事例の対象期間は、2015年1月～2016年4月末までを原則としています。

データの集計期間は、2015年1月～12月末までです。

● 対象範囲

当レポートで開示しているデータは、コカ・コーライーストジャパン(株)および関連会社における「製造」「物流・輸送」「販売」「回収・リサイクル」のデータです。

● 発行日

2016年10月

● 用語について

CCEJはコカ・コーライーストジャパン(株)を指し、コカ・コーライーストジャパングループ(CCEJグループ)はCCEJおよび関連会社(コカ・コーライーストジャパンプロダクツ(株)、FVイーストジャパン(株)、三国サービス(株))を指します。ボトラー社は日本コカ・コーラ(株)が指定する全国のボトリング会社を指します。また、「コカ・コーラシステム」には日本コカ・コーラ(株)およびボトラー社・関連会社が含まれます。

お客様は顧客および消費者のみなさまを含みます。

CCEJ Facebook



CCEJ Website



Top Message

サステナビリティ

コカ・コーラ・イーストジャパン(以下CCEJ)が誕生してから3年が経ちました。CCEJは2013年、ステークホルダーのみならずさらなる価値を届けるため4つのボトラー社を統合しました。ステークホルダーとは、製品を販売して下さる顧客、製品をご購入して下さる消費者、CCEJの成長に投資して下さる株主、そしてともに働く従業員です。

昨年、仙台コカ・コーラボトリング株式会社がCCEJの歴史に加わり、私たちはさらなる発展を遂げました。関東4ボトラー社の経営統合以来、CCEJは「One(ひとつ)」となり、短い期間で大きく事業を変革しました。ワールドクラスの日本のボトリング会社になるという目標のもと、世界中のボトラー社の成功モデルを取り入れています。

私たちの道のりは、サステナビリティと密接につながっています。CCEJにとってサステナビリティとは、ステークホルダーへのコミットメントを日々守ることだけでなく、私たちすべてにとって明るい未来を築くため努力することでもあります。

サステナビリティへの取り組みは地域コミュニティのニーズに応えることから始まり、これによってCCEJの事業もまた、確実に強みを増すことでしょう。

CCEJはグローバルなコカ・コーラシステムの一員ですが、私たちは地域に密着した事業を展開し、地域経済にプラスとなる人々やプロセス、システムへの投資を行っています。さらに、11,000人を超える従業員をCCEJエリアから雇用し、従業員の安全、意見の尊重、キャリアの充実にむけ取り組んでいます。また、CCEJは地域とのパートナーシップを通して自然環境を保護すると同時に責任を持った水の使用を実践しています。



への道のり

そして、自然災害などの地域の課題を解決するため、CCEJの資源および専門知識を駆使していきます。

このサステナビリティレポートでは、これまでのCCEJの取り組みや、私たちのパートナーおよび従業員との関係から実現した成功事例をご紹介します。

私たちは、飲料業界のNumber One企業となる、地域社会にとってOnly One企業となる、従業員が働きがいと誇りを感じるBest One企業となるという壮大な目標を掲げています。これまでの実績を大変誇りに思っていますが、CCEJはすべての活動でnumber oneになるため今後も努力を続けていきます。

成長にむけたOne+ロードマップはこうした取り組みを導くものであり、私たちのビジネスのサステナブルな成長の加速を後押しするものです。変革と統合にむけたイニシアティブを明確にし、継続して事業の成長に取り組んでいます。現在では、人々やプロセス、システムの発展において、その成果が表れ始めています。

私はCCEJの成功がステークホルダーのみなさまの成功につながることを確信しています。近年取り組んでいる植林や環境保護、社会貢献プログラム、職場環境の充実のための投資は、地域のみなさまにも価値を提供しています。だからこそ、地域のみなさまに寄り添いそのニーズに耳を傾ける取り組みは今後も変わらず続けなければなりません。それが私たちすべてにとってサステナブルな未来につながる鍵だと考えています。

コカ・コーライーストジャパン株式会社
代表取締役社長CEO

カリン・ドラガン



「成長にむけた One+ロードマップ」

**2018-
Accelerating**
ワールドクラスのボトラー
水準に到達し、それを上回る

世界で通用するワールドクラスの
日本のボトラー社へ

**2016-2017
Performing**
グローバルボトラーの
水準に近づく

成長やコストシナジーを
加速させるため、競争優位性の
ある新たな手法を確立

**2015-2016
Norming**
新しいビジネスモデルの
質を高め、最適化する

業績を残しながら
ビジネスプロセスを最適化し、
ERP*システムを導入

*ERP: Enterprise Resource Planning

**2012-2014
Forming & Storming**
新しいビジネスモデルを
明確化し、展開する

スピード感を持って
統合プロジェクト
を推進

成長機会と
コストシナジー
の特定

フィロソフィー

企業理念

ミッション(使命)

Mission

—革新と挑戦— **飲料の新しい世界を創る**

ビジョン(目指す姿)

Vision

持続的成長によりすべてのステークホルダーに貢献する



私たちは目指します



飲料業界の

Number One 企業となる

コカ・コーライーストジャパングループは、飲料業界を常にリードする存在となります。私たちは、常に革新的な取り組みに挑戦し、質の高い製品やサービスを提供していきます。そして、お客様から信頼され、選ばれる魅力的な製品を提供していきます。



地域社会にとって

Only One 企業となる

コカ・コーライーストジャパングループにとって、地域社会は非常に大切なパートナーです。私たちは、地域にとって最も身近な存在として、自然環境に配慮し、豊かなまちづくりに貢献していきます。



従業員が働きがいと誇りを感じる

Best One 企業となる

コカ・コーライーストジャパングループの発展には、従業員一人ひとりの成長が欠かせません。私たちは、すべての従業員が前向きに楽しく働くことができ、社会からも認められる企業をつくり上げていきます。

環境方針

『基本理念』

コカ・コーライーストジャパングループは、
自然環境に配慮しながら豊かでうるおいに満ちたまちづくりに貢献していきます。
地域社会やステークホルダーとともに環境保全活動に取り組み、
私たちのビジネスが環境に与える影響に配慮し、
「責任ある企業市民」として責務を果たします。

『行動指針』

『基本理念』を実現するために、次の行動指針を定めます。

- 1 法令遵守**
環境関連法規・条例・各種協定、および自主基準を遵守します。
- 2 環境負荷の低減**
省エネルギー、省資源、環境負荷の低減を図ると同時に汚染の予防に努め、自然環境へ配慮します。
- 3 環境投資**
適切な経営資源を投入し、3R「リデュース（排出抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生）」を推進します。
- 4 コミュニケーション**
地域とのコミュニケーションを大切に、環境保全の重要性を多くの人々に理解していただけるよう、積極的な役割を果たします。
- 5 環境教育の実施**
地域の方々、そしてコカ・コーライーストジャパングループの事業活動に係わる全ての人に対し、各種環境教育制度を導入することで意識の向上を図ります。
- 6 仕組みの見直し**
環境目標およびマネジメントシステムを定期的かつ必要に応じて見直し、継続的改善に取り組めます。

～この環境方針は全従業員へ周知するとともに、社外へ公表します。～

2015年10月1日
コカ・コーライーストジャパン株式会社
代表取締役社長CEO
カリン・ドラガン

コカ・コーライーストジャパングループの紹介

CCEJグループは、日本のコカ・コーラシステムの年間販売数量の半分以上を占める日本最大のボトリング会社です。
事業統合や従業員およびシステムなどへの投資を通じて、私たちはこれからも変革していきます。

●売上額



●販売地域の人口

約 **6,600** 万人

日本のコカ・コーラシステムで最大

2015年4月発表「人口推計」(総務省統計局)をもとに算出



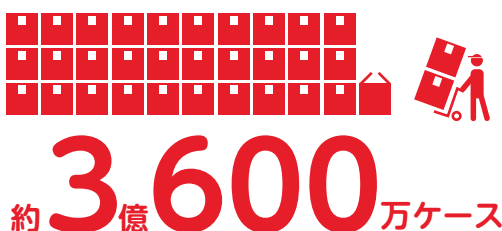
●飲料ブランド数



●従業員数(正社員、臨時従業員計)



●販売数量(年間実箱ベース)



日本のコカ・コーラシステムの50%

●生産拠点・物流拠点／営業所数



●販売店舗数



●自動販売機、クーラー、 ディスペンサーの数

55 万台以上



経営統合後、2年間で

新規または
リニューアルライン

10 導入



2015年12月末時点

会社概要

商号	コカ・コーライーストジャパン株式会社 (英文社名: Coca-Cola East Japan Co., Ltd.)
グループ会社	コカ・コーライーストジャパンプログラフツ株式会社 FVイーストジャパン株式会社 三国サービス株式会社
本社所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂六丁目1番20号 国際新赤坂ビル西館
代表者	代表取締役社長CEO カリン・ドラガン(Calin Dragan)
従業員数	11,269人(2015年12月31日現在) (正社員、臨時従業員計)
事業内容	清涼飲料水の製造、加工および販売
設立年月日	2001年6月29日 (2013年7月1日 コカ・コーライーストジャパン株式会社に 商号変更)
売上高	5,631億62百万円(2015年12月期)
資本金	64億99百万円(2015年12月31日現在)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部) コード番号2580

沿革

2013年7月

コカ・コーラ セントラル ジャパン(株)、三国コカ・コーラ ボトリング(株)、東京コカ・コーラボトリング(株)および利根コカ・コーラボトリング(株)の経営統合によりコカ・コーライーストジャパン(株)が発足

2014年1月

コカ・コーライーストジャパンプログラフツ(株)、白州ヘルス飲料(株)、コカ・コーラセントラルジャパンプログラフツ(株)および三国アセプティック(株)を合併し、コカ・コーライーストジャパンプログラフツ(株)が新たに発足

2014年7月

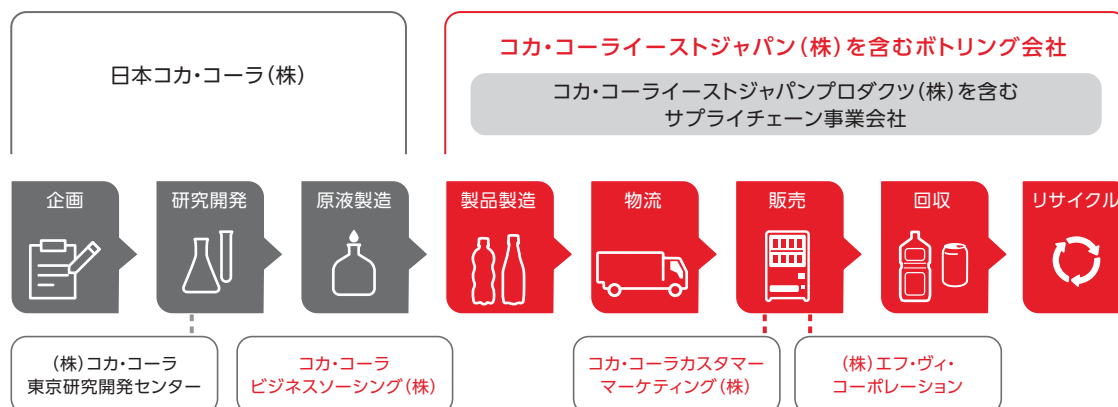
コカ・コーライーストジャパンプログラフツ(株)が、セントラルジャパンロジスティックス(株)、三国ロジスティクスオペレーション(株)、利根物流サービス(株)、セントラルジャパン テクノサービス(株)、三国自販機サービス(株)、マシン・メンテナンス・ネットワーク(株)および利根自動販売機サービス(株)を吸収合併

2015年4月

仙台コカ・コーラボトリング(株)との事業統合
三国フーズ(株)、エフ・ヴィセントラル(株)、アーバンベンディックス ネットワーク(株)、(株)ウエックス東京、フレッシュ・ベンダー・サービス(株)、EX-サービス(株)、TXキャンパス(株)および日東パシフィックベンディング(株)を1社に統合し、FVイーストジャパン(株)に社名変更

日本のコカ・コーラシステム

日本のコカ・コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発や広告などのマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ(株)と、製品の製造・販売を行うボトラー社や関連会社などで構成されています。CCEJを含む各ボトラー社および関連会社では、全国の工場での製品製造をはじめとして、物流・輸送、販売活動を行っています。





特集

お客様の 飲料パートナーとして

私たちは過去にとらわれず世界のコカ・コーラシステムの成功事例を活用しながら、お客様の目線で新しい価値をお届けしています。
常にお客様満足の向上に努め、協働して課題解決に取り組む
私たちの姿勢こそが、CCEJを信頼できるパートナーとして
選んでいただいている理由のひとつです。

お客様中心の営業活動を実践するRTM

CCEJでは、2015年からRTM(Route To Market)を導入しています。RTMの基本理念は「お客様中心の営業活動を実践することにより、お客様とともに成長をしていくこと」にあり、どうすればお客様へのサービスを最大化できるかを考え、日々活動しています。

RTMの導入によって、お客様のニーズを把握し、サービスの向上が可能となりました。

また、2016年より製品受注がメインであった受け身のカスタマーコンタクトセンターをセールスコール(電話営業)メインの営業へと進化させ、お客様とのコンタクト回数を増やしています。

Route To Market

従業員の声



増崎 葉月

コカ・コーライーストジャパン株式会社
コマースナル
フィールドセールスオペレーション統括部

RTMで営業スタイルが大きく変わった

チェーンストアの営業担当として、スーパーマーケットやドラッグストア、ディスカウントストアなど店舗を訪問し、新製品の販売促進やプロモーションを活用した売り場提案を行っています。

RTMの導入で営業スタイルが大きく変わりました。まず、タブレットによってわかりやすい説明が可能になりました。タブレットには店舗訪問のスケジュールが自動で表示されるので、定期訪問の抜け漏れもなくなりました。また、直行直帰が可能となり、お客様と

の時間がこれまで以上に増えたことで、より一層密な商談ができるようになりました。そのためお客様のニーズにも柔軟に対応できることにつながっています。

まだ導入されたばかりのRTMですが、今後さらに進化した営業活動に貢献するものと期待しています。RTMのさらなる活用によってお客様とのパートナーシップを深めるとともに、売上拡大を実現していきたいと考えています。





コカ・コーラのグッズやポスターであふれる「ナンバーシックス」の店内



丸井 貴史

コカ・コーライーストジャパン株式会社
コマーシャル
フィールドセールスオペレーション統括部

当然のことですが、お店は消費者のみなさまのニーズを一番よく理解しています。RTMが導入され、お店の方々とコミュニケーションの機会が飛躍的に増えました。それぞれの店舗のリクエストに応えることはもちろん、コカ・コーラならではのご提案をさせていただいています。

ナンバーシックス様では、ソフトドリンクの販売はもちろん、クーラーの提供・設置、「コカ・コーラ」や「カナダドライ」などの製品を利用したカクテルの提案なども行っています。お店のコンセプトを十分理解し、マッチングした提案を行うことで、ご来店いただく方々へスマイルをお届けできたら、と考えています。

お店と協働で、スマイルをお届けする

当店はハンバーガーをはじめとする肉料理を気軽に召し上がっていただきたい、アメリカのカジュアルなダイナーのような雰囲気楽しんでいただきたい、というコンセプトで約1年半前に開店しました。そんな当店にとってコカ・コーラはなくてはならない存在です。肉料理にマッチするドリンクとしてはもちろん、古き良きアメリカを感じさせるグッズやポスターは、お店を演出する絶好のアイテムとなっています。

また当店は、一人ひとりのお客様にできるだけ直接ご挨拶させていただくなど、丁寧できめ細かいサービスを心掛けています。CCEJ社は、機材やイベントなどさまざまな面でご提案をいただき、協力的で密なコミュニケーションをしてくれるので、サービスの質向上に非常に役立っています。

これからもCCEJ社からご提案いただくお店づくりや企画にいっしょに取り組むことで、より多くのみなさまにご満足いただき、笑顔をお届けできたらと思っています。



長倉 龍男様

東京・赤坂ダイニングバー
「ナンバーシックス」店長



安全に配慮した製品づくり

いつでもどこでも誰にでも、安全で高品質な製品をご提供できるよう、
お客様の信頼に応えることができる、厳格な品質管理と検査体制を整えています。



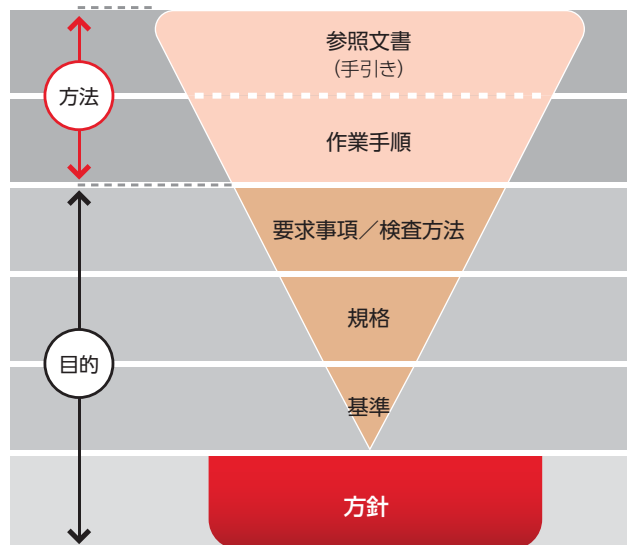
マネジメントシステム「KORE(コア)」に基づいた国際規格の遵守

コカ・コーラシステムでは、独自のマネジメントシステム「KORE(Coca-Cola Operating Requirements)」によって、世界共通のオペレーション管理を行っています。「KORE」は、原材料の調達から製造、物流・輸送、販売を経て、お客様に製品をお届けするまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOや各種法令の要求事項を満たし、より厳しい方の基準を自らに課す内容となっています。

また工場に対して、ザ コカ・コーラ カンパニー アトランタ本社の監査チームが非通知で監査を実施し、要求事項が遵守されていることを確認しています。

注：「KO」はニューヨーク証券取引所に上場しているザ コカ・コーラ カンパニーの略称です。

■「KORE」フレームワーク図



国際規格の取得

CCEJグループではISOなどの国際規格への準拠を定めています。外部審査機関によって定期的にパフォーマンスを評価いただきながら、継続的な改善活動に取り組んでいます。



品質保証検査体制の充実

2016年5月、工場から出荷した製品、市場で販売されている製品の品質を一元的に管理する品質保証実験室を海老名オフィス内に開設。最新鋭の検査機器を導入し、お客様に対して迅速・正確に検査結果を提示できる体制を構築しています。

品質マネジメントシステム
「ISO 9001」

環境マネジメントシステム
「ISO 14001」

食品安全マネジメントシステム
「FSSC 22000」

労働安全衛生マネジメントシステム
「OHSAS18001」



海老名オフィス内にある品質保証実験室「海老名ラボ」

すべてのお客様満足のために

日本のコカ・コーラシステムでは、消費者の声を反映した製品開発を行っています。
CCEJでは製品・サービスに関するお客様のご意見・ご要望やご指摘に対して、
正確・迅速に応え、解決・改善できる体制で取り組んでいます。

ニーズにお応えする製品の提供

消費者のみなさまのライフスタイルや嗜好に合わせた豊富なラインナップで製品を製造・販売しています。

■ 主な製品ラインナップ

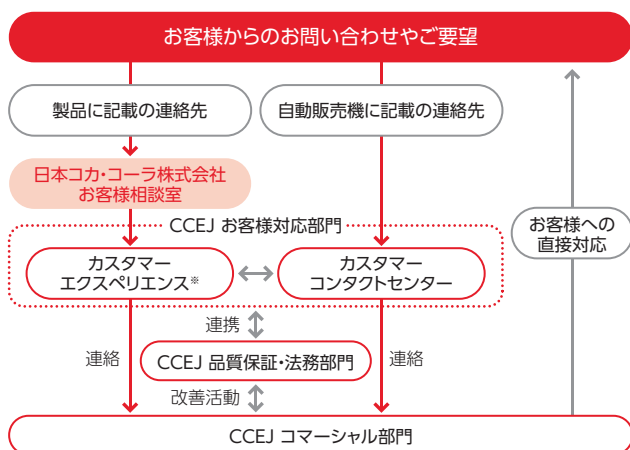


※製品情報についてはP.33-34をご参照ください。

お客様のお問い合わせやご要望への対応の充実

CCEJは昨年、お客様対応業務の質を継続的に改善し、お客様の満足度を向上させることを目的に、苦情対応マネジメントシステムの国際標準「ISO 10002 (JIS Q 10002)」に適合した仕組みや手順を構築し、自己適合を宣言しました。

私たちのお客様対応部門はお客様からのお問い合わせを集約管理しています。製品に関するご要望については、日本コカ・コーラのお客様相談室を経由し、CCEJカスタマーエクスペリエンスに届きます。また、自動販売機などの機材に関するお問い合わせについては、直接CCEJのカスタマーコンタクトセンターで受け付け

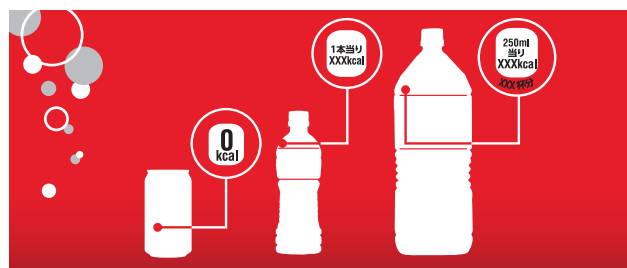


※2015年末まではお客様満足推進課

製品に関する情報発信

コカ・コーラシステムでは、製品に関する正しい知識の提供に努め、ほぼすべて*のコカ・コーラ社製品のパッケージ前面にカロリーを表示し、お客様がご自身に合う清涼飲料を選ぶ際の情報をわかりやすくお伝えしています。

■ 製品パッケージ前面カロリー表示



*ファウンテン(カップベンディング、ディスペンサーを含む)、リターナブルボトル、パウダー製品、希釈製品、水(無糖・フレーバーなし)については、製品パッケージ前面カロリー表示の対象外となります。

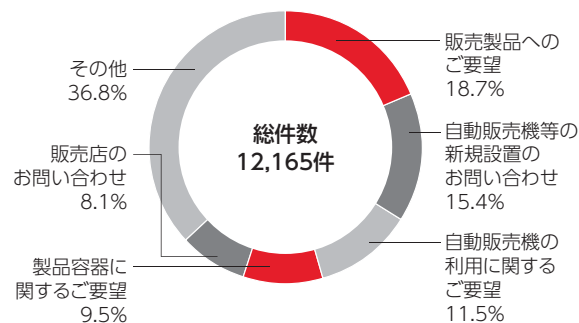
*カロリーは整数(小数点以下切り捨て)で表示しています。

*大型パッケージについては250mlを1杯分として容量換算しています(小数点第二位四捨五入)。

ています。なお、お客様の了承を得るまで対応が適切かつ迅速に完了しているかを管理する指標として、フォローアップ率を定め、2015年は97%のフォローアップ率を達成しました。さらに、2015年末には専門的な外部委託会社を導入し、お客様対応業務および生産性の向上を目的とした体制の強化を推進することができました。

今後も、お客様対応に関する社内トレーニングの強化、スマートフォンを活用したお客様アンケートの導入、テレセールスの拡充、機材修理アドバイザーの導入などを行っていきます。

● お客様からいただいたお問い合わせやご要望



※2015年に日本コカ・コーラお客様相談室にCCEJの営業エリアのお客様からいただいたお問い合わせやご要望です。2016年からは、CCEJカスタマーコンタクトセンターに入電されるお客様の声についても一元的に集約・分析できるシステムがスタートしました。

※旧仙台社のお問い合わせ窓口は、2015年4月から統合しました。



サプライヤーとともに

ザ コカ・コーラ カンパニーが定めるグローバルな規格・基準のもと、サプライヤーのみなさまにはさまざまなビジネス領域や地域社会の持続可能性の確保に貢献する重要な役割を担っていただいています。CCEJはサプライヤーのみなさまとともに成長し、お客様へ飲料ビジネスを通じて新たな価値をご提供できるような関係を築いていきます。

サ プライヤー基本原則

CCEJグループでは、あらゆる事柄について、すべての従業員が法律に従い倫理的に行動することを求めるとともに、サプライヤーにも同様の基準の遵守をお願いしています。

本サプライヤー基本原則はサプライヤーに対する要件を明記し、以下の項目の遵守を求めています。

コカ・コーラ イーストジャパン サプライヤー基本原則

1 法令の遵守

当社の製品および供給品の製造と流通において、また、サービスの提供において、適用されるすべての現地および国内の法律、規則、規制、要件を遵守すること。

2 結社の自由・団体交渉の権利

従業員が報復、脅迫、嫌がらせを恐れることなく、法令に従い、労働組合に参加・不参加、または労働組合を結成する権利を尊重すること。従業員が法的に認められた労働組合の組合員である場合、従業員の自由意思によって選ばれた代理人と建設的な対話を持ち、誠意を持って交渉に臨むこと。

3 児童労働の禁止

適用される法律や規制で定められた最低就業年齢条件に従うこと。

4 強制労働と労働者虐待の禁止

従業員の身体的虐待を禁止し、あらゆる形態の強制労働の使用および人身売買を禁止すること。

5 差別の撤廃

雇用による差別をなくし、身体的または言葉による嫌がらせのない職場を維持すること。職場における機会均等と処遇における公平の実現に努めること。

6 労働時間と賃金

賃金、労働時間、時間外勤務、福利厚生に適用される法律に準拠して事業を運営すること。

7 安全で健全な職場環境の提供

安心して働ける、安全かつ健全な職場を提供すること。事故、負傷、健康上の危険性を最小限に抑え、生産性の高い職場を維持すること。

8 環境保護

環境を保護、保全する方法で業務を遂行すること。適用されるすべての現地および国内の環境に関する法律を遵守すること。

9 誠実なビジネス

サプライヤーは、適用されるすべての現地および国内の法律を遵守し不正行為を行わないこと。

●利益相反行為の禁止

サプライヤーは、当社の従業員と利益相反を招く恐れのある関係を持たないように注意すること。

●賄賂行為

すべてのビジネス関係において、不適切な利益を目的とした贈答、接待の供与や受領を行わないこと。

●正確な記録

すべての取引に関するすべての事項について正確な記録をとり、会計上ほかの適切な処理を行い、正確な請求書を提出すること。

●情報の保護

当社とのビジネス関係における機密情報を守ること。また、個人情報情報を適切に管理・保護すること。

●公正な取引

公正、透明、自由な取引を阻害する行為を行わないこと。

●知的財産権の保護

知的財産権を尊重し、第三者の知的財産権を侵害しないこと。

●製品の品質

安全な製品とサービスを提供するため、契約等で同意した品質要求を満たすこと。

10 苦情処理と救済

報復を恐れることなく、相談、苦情を提起し、懸念が適切かつ適時に対処されることを保証するメカニズムを労働者に提供すること。

11 コンプライアンスの実証

サプライヤーは、当社の要請において、サプライヤー基本原則の遵守を実証できること。

●当社または当社指定の第三者機関は、サプライヤー基本原則の遵守状況を監査することができます。

●サプライヤー基本原則の遵守を怠った場合、是正措置の実施が求められます。

●当社は、サプライヤー基本原則の要件を維持していることを示せないサプライヤーとの契約を終了できる権利を留保します。

注：国際労働機関(ILO)の8つの中核条約が、現地の法律よりも高い基準を設定している場合は、ILO 基準を満たす必要があります。

注：サプライヤーが、当社が別途特定する業務委託先である場合は、本規範のほか、別に定める「サプライヤー用事業運営規範」を遵守する必要があります。

注：CCEJサプライヤー基本原則は、法令等の改正に伴い、予告なく内容を改定する場合があります。



グローバルなビジネスモデルの 最高水準を目指して

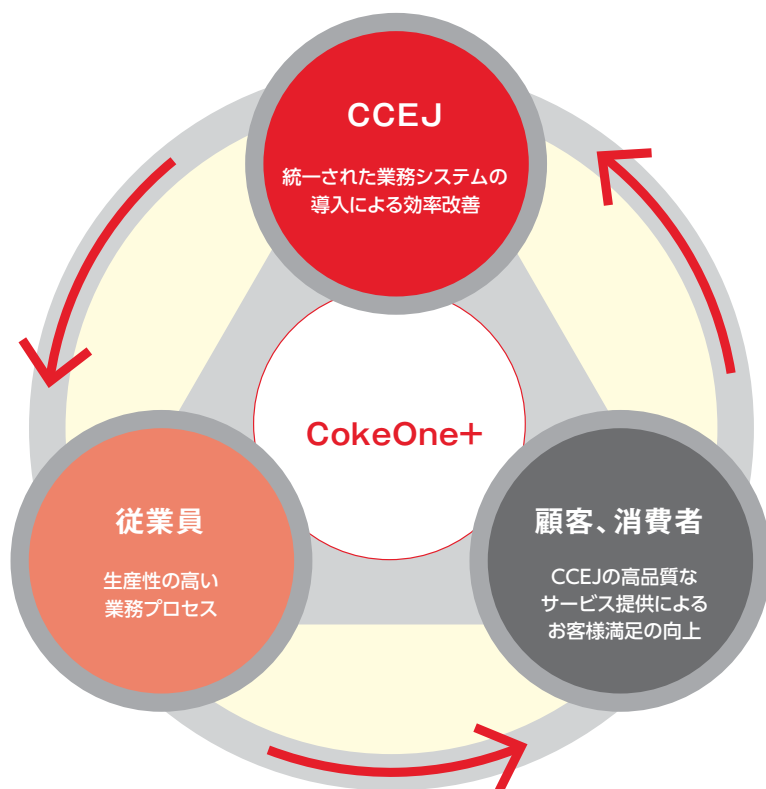
CCEJは、世界のコカ・コーラシステムから、あらゆるビジネスプロセスの成功事例を集め、経営資源を投資してきました。そして、顧客や消費者のみなさまのニーズに応え続けられるよう、生産能力の向上にも注力しています。

業務プロセスの標準化

CokeOneは、世界のコカ・コーラボトラー共通の業務プロセスと、それをサポートするERP(エンタープライズ・リソース・プランニング)システムの総称で、コカ・コーラシステムが開発しました。2015年にCCEJグループ独自のCokeOne+(ERPシステム)を導入し、ボトラー社によってばらつきのあった工場、物流、販売機材管理、人事、財務における業務プロセスならびにシステム

を統一することに成功しました。

CokeOne+はシステムを統一／標準化し、データを可視化することで、CCEJグループの事業成長の基盤となっています。これにより、業務の効率化が図れるとともに、顧客や消費者のみなさまの日々進化するご要望に応えつつ質の高いサービスをご提供することが可能になります。



製造システムの革新

2014年以降、岩槻、海老名、白州、東海および茨城工場において、10の製造ラインを新たに導入またはリニューアルし、生産業務のさらなる内製化と製造工程の効率化を進めています。世界有数の規模とスピードを誇る新たな製造ラインの稼働により、消費者のみなさまのニーズに応えた製品をいつでもどこでもお届けすることが可能となっています。





使った水を自然へ還す

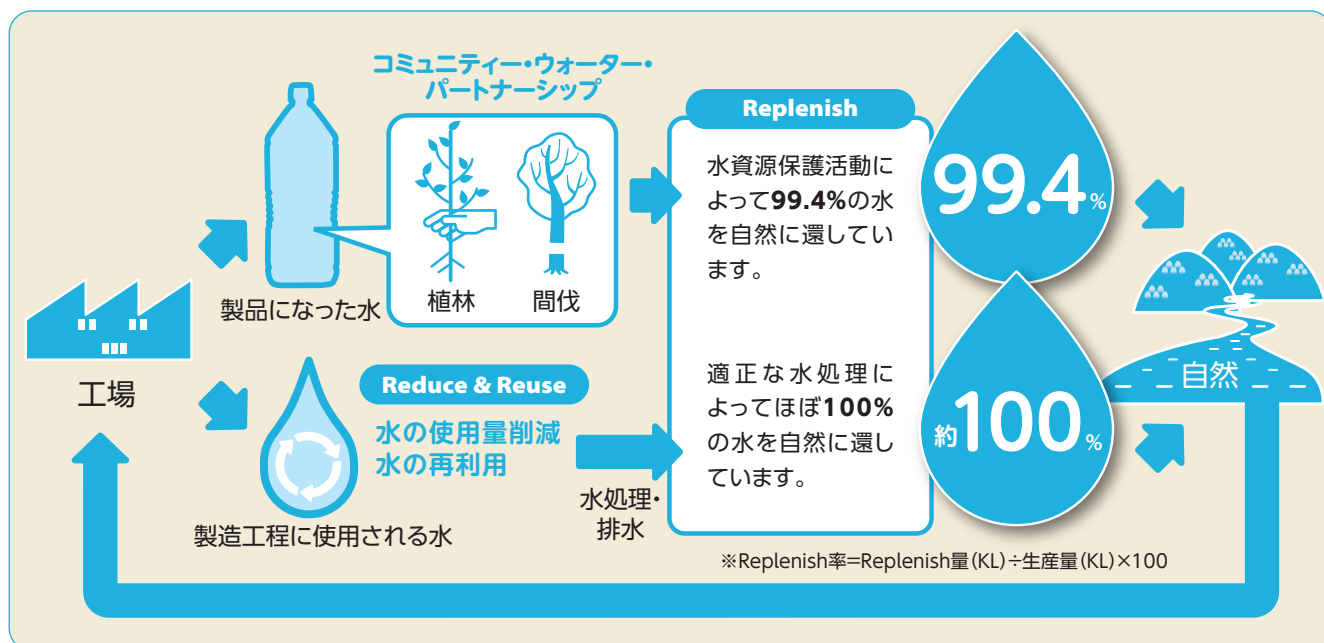
水はすべての人々にとってかけがえのない資源です。CCEJの成功とサステナブルなビジネスの成長には、豊かな水資源をいつまでも育むことが重要です。私たちの製品にとって最も大切な原材料である水は、製造過程においても大きな役割を担っています。

水を使う企業として、効率的な利用、排水処理やリサイクル、水源涵養を行うことはCCEJの最優先事項です。これらの活動を通して、CCEJはコカ・コーラシステムが掲げる「2020年までに製品および製造過程で使用した量と同等の水を自然に還す」ことに努めています。

コカ・コーラ イーストジャパン

岐阜県恵那市での田植え

CCEJの水の循環（ウォーター・ニュートラリティー）



水 資源保護 (リプレニッシュ)

コカ・コーラシステムは水資源の保護に努めています。一つは製造工程における使用水を適正に処理し自然に還すというこ

と、また一方では、事業者、行政や地域の団体と水資源に関するパートナーシップを確立することで水源域を保護しています。

☐ ミュニティー・ウォーター・パートナーシップ (CWP)

CCEJの工場の水源となる地域を特定し、その地域の特徴に合わせた水資源保護(リプレニッシュ)プログラムを推進するため地域コミュニティとCWPを締結します。その協定の一環として、植林や間伐、田植えや米の収穫など、持続可能な水源を育むための活動を展開しています。地域ごとに次世代を担う子どもたちを対象とした環境プログラムを定期的に行い、水資源保護の重要性について理解を深めていただいています。



水資源保護活動による水源涵養率は専門機関を通じて計算され、2020年までに製品に使用した水を100%還元する目標を掲げています。2015年では製品に使用した水を99.4%還すことができました。

排水管理

製造過程で発生した水は、当該地域の規定に従って処理し、自然に戻します。また、排水処理に関するコカ・コーラシステム

独自の基準(KORE)にも対応し、水生生物が生息できるような環境の維持に努めています。

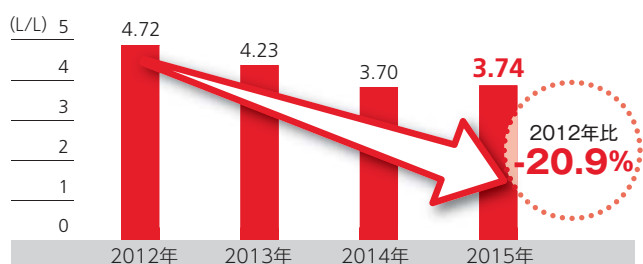
水の使用量削減(リデュース)

CCEJでは製造過程で発生した水の削減に努めるとともに、コカ・コーラシステム独自の品質管理基準/環境管理基準であるKOREマネジメントシステムを遵守しています。

2012年に比べて、製品1Lあたりの使用量(WUR)を20.9%削減することができました。2015年のWURは3.74L/Lであり、2014年数値を若干上回る数値となりました。引き続き、私たちは節水機能を備えた新ラインへの投資および水資源保護活動を推進していきます。

さらに、8工場すべてにおいてWURの改善にむけた取り組みが進められています。水を使用せずに空気ですすいでPETボトルを洗浄するエアリンス設備など新たな機材やシステムに投資し、成功事例をほかの製造工場へ水平展開しています。これらの取り組みを通じて2016年は大幅な改善を見込んでいます。

● WUR(製品1Lあたりの水使用量)



※環境関連データは、現在のCCEJエリアに存在する(あるいはかつて存在した)すべての工場を対象として、2012年以降、年度ごとに算出しています。現在(2015年)と経営統合前(2012年)とを比較しています。

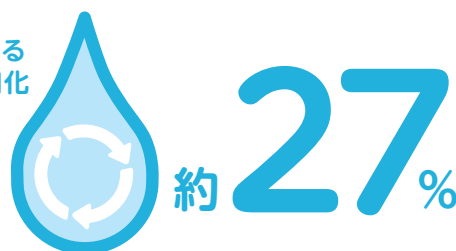
水の再利用(リユース)

CCEJの工場では製造工程で使用した水を適正に処理し、再利用することに努めています。2015年には、製造工程における使用水(冷却用水や洗浄用水など)の約27%を再利用しました。



工場における水の循環利用

● 製造工程における使用水の再利用化





特 集

水を守ることは、森を守ること

—豊かな自然をあしたにつなげる片品村プロジェクト—



製造過程で使用した水を

適正に処理し自然に還すのみならず、

CCEJは製品と同等の量の水を還す

水資源保護活動を行っています。

これを実現させるために、私たちに専門知識や

見解をもたらす行政や企業、市民団体と協働します。

ここでは、次世代のために確実な水資源を確保するため、

日本製紙グループと協働している

群馬県片品村での取り組みをご紹介します。



間伐などの手入れを行うことが、森林保全につながる



水資源に関する豊富な知見に
期待しています

吉田 裕弘様

日本製紙総合開発株式会社
常務取締役
丸沼高原事業部長

地域一体型 森林/水資源保全応援
キャンペーンの自動販売機
売上の一部を村の方々を中心と
なって実施されている水資源保全
活動へ寄付



スノーシュー体験

森が荒廃すると、その土地の
水源涵養機能は著しく低下し、



それぞれのビジネスの根幹となる「森」と「水」に着目

コカ・コーラシステムでは、工場の水源域を特定・調査し、水源域が持続的に水を育み蓄える力を持ち続けていけるよう、地域や専門家の方々と協力して、水資源保護に取り組んでいます。

次の世代につながる豊かで美しい森を

2013年から日本製紙グループとの協働により、CCEJの埼玉工場、岩槻工場の水源域の一つである群馬県片品村で森林保全を行っています。

同グループの森林経営に携わる吉田常務にお話を伺いました。

吉田様 「私どもが当地域に保有する菅沼社所有林は、4,915ヘクタールで約57%が日光国立公園に指定されており、水源涵養や生物多様性保全など森林の持つ公益的機能の保全に努めています。森林経営では、間伐や下草刈りなどの手入れをきちんと行うとともに、山火事などの災害に備え緊急車両が通行できる道を整備し、鹿などの獣害から守るため立木の1本1本に防護用のテープを巻くといった作業を続けています。こうすることで、次の世代につながる豊かで美しい森が保たれます。



日本製紙グループが経営する丸沼高原スキー場。年間約35万人のびとが訪れ、地域の振興に貢献している山頂駅付近には、日本の百名山の一つ、日光白根山がそびえ立つ

水資源に悪影響を及ぼします。水資源に関する豊富な知見を持つCCEJ社との協働によって、森林保全活動がさまざまな分野に広がっていくことを期待しています」

地域に合った活動を、地域のみなさまとともに

CCEJでは、地域のみなさまと協力しながら水資源保護活動を推進しています。活動推進責任者である松尾に話を聞きました。

松尾 「地域のお役に立てればと考え、日本製紙グループ様の所有地である丸沼高原スキー場のほか、片品村内のレストランやカフェ、自動販売機などでの売上の一部を水資源保護活動へ寄付する『地域一体型 森林/水資源保全応援キャンペーン』を展開しています。寄付金は、村の方々が中心となって実施されている自然環境保護活動にお使いいただいています。

さらに、子どもや家族を対象にした環境教育プログラムとして、『スノーシュー体験』と『天然の倒木を利用した木工体験』を行っています。これからも、より多くのみなさまに参加していただけるプログラムを展開していきたいと考えています」

50年、100年先の未来を見据えて

両社の協働活動は2021年まで続きますが、それは通過点に過ぎません。

吉田様 「先輩諸氏が植えて育てた木を伐り出し、また植えて次の世代に継承していく。森林経営とは、自然とむき合い、地域とむき合っていく営みです」

松尾 「水源域から工場へ、私たちが使っている水はたくさんの旅をしています。その旅をわかりやすく伝えることで、少しでも多くのみなさまに水を守る大切さを感じてほしいと思っています」

50年、100年先の未来を見据えた協働活動は、美しい未来へむけてスタートしました。

水資源保護の重要性を理解していただけるプログラムを展開していきます



松尾 久利子

コカ・コーラ・イーストジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーション
サステナビリティ・マネジメント部



天然の倒木を利用した木工体験



環境保全へむけたエネルギー削減

エネルギーを効率的に使うことは、私たちのビジネスの成功に貢献するだけでなく、地域社会や環境保全にも配慮することにつながります。工場や市場での省エネ対応や廃棄物・空容器のリサイクルを通じて、CCEJはエネルギー利用とCO₂の排出量を同時に削減しています。

※環境関連データは、現在のCCEJエリアに存在する(あるいはかつて存在した)すべての工場を対象として、2012年以降、年度ごとに算出しています。
現在(2015年)と経営統合前(2012年)とを比較しています。

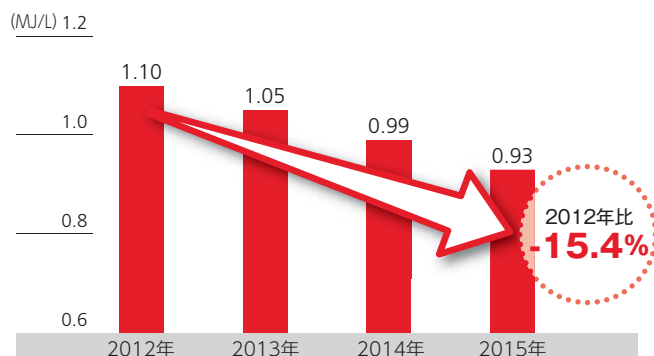
工場でのエネルギー削減への取り組み

CCEJの工場では、新しいプロセスやエネルギー効率の良い技術に投資を行い、製造工程での電力使用量の削減に努めています。例えば、コージェネレーションシステムを導入したことで、一つのエネルギー源で同時に電力と熱を生み出すことができます。さらに、エネルギー損失を最小限に抑え、最大限有効活用できる断熱・熱交換システムを採用しています。

CCEJでは製品1Lあたりのエネルギー使用量(EUR)をエネルギー管理項目の指標として設定しています。2015年には、EUR0.93MJ/Lとなり、2012年から15.4%の改善を図ることができ、2016年においても大きな成果が期待できます。今後も持続可能なビジネスの成果を創出するためには、EURが重要なビジネス指標になると考えています。エネルギー効率を向上

させることは将来のサステナブルな電力の確保とCO₂排出量削減に貢献するための重要な取り組みです。

● EUR (製品1Lあたりのエネルギー使用量)



工場での 再生可能エネルギーへの取り組み

地元企業のビジネスに協力するため、蔵王工場では、工場の屋根を貸与し、**8,820枚**の太陽光パネルが設置されました。年間発電量として、一般家庭**665世帯分**の年間消費電力量に相当する**2,255,484kWh**を供給するとともに、環境負荷低減に貢献する再生可能エネルギーを生みだしています。



市場でのエネルギー削減への取り組み

CCEJの営業部門では、最長16時間もの間、冷却用の電力を完全に停止しても24時間いつでも冷たい製品を提供することができる「ピークシフト自販機」を2013年から展開しています。従来の自動販売機に比べて、最大で95%の消費電力を削減することが可能です。2015年までに64,122台の「ピークシフト自販機」を市場へ導入しています。

物流部門では、低燃費化を目指し、電気自動車の導入や2年間で約100台の乗用車のダウンサイジングを行いました。また、製品輸送効率の向上を掲げ、トラック1台あたりの積載量(キューブ率)を増加させることで配送トラック数の削減とCO₂排出量の低減につなげています。

● 「ピークシフト自販機」の台数(2015年)

64,122台
(2014年比+30,764台)



最長 **16** 時間
日中の冷却
運転を停止

24 時間
いつでも
冷えてる

最大時 **95** %
消費電力を
削減

CO₂の削減への取り組み

エネルギー削減にむけた取り組みは、私たちのビジネスの成功に貢献することはもちろん、CO₂削減にもつながっています。CCEJの工場では重油から都市ガス・天然ガスに転換するエネルギーシフトにより、環境に配慮したエネルギー源の利用を推進しています。

これらの取り組みにより2012年から13.4%ものCO₂を削減することができました。

私たちの展開している機材において、製品冷却に使用されるフロン(冷媒)からの脱却は、CO₂削減にむけた重要な課題です。2020年までに市場に導入されたすべての自動販売機をノンフロン化することを目指しています。

CO₂排出量(2015年)

-13.4% (2012年比)

(503,356t※) ※製造、物流、営業、オフィス部門の全CO₂排出量

市場に導入されているノンフロン自動販売機の割合(2015年)

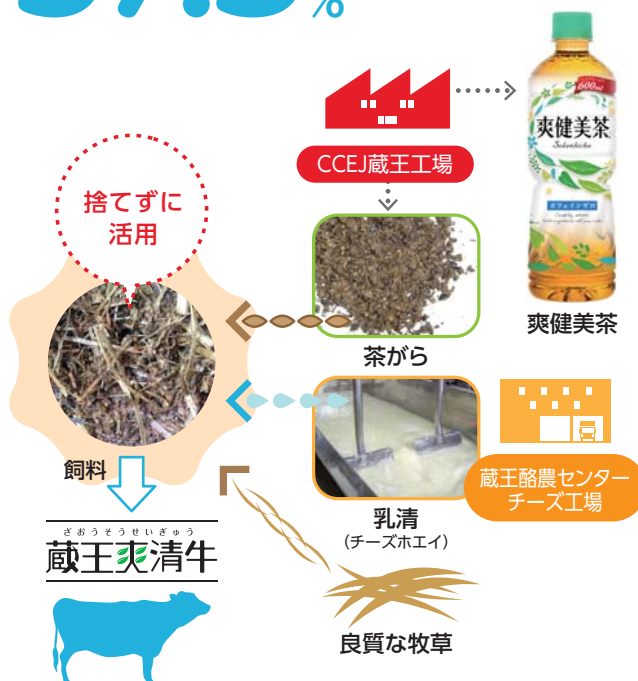
57.3%

廃棄物の削減への取り組み

CCEJでは、すべての事業領域において廃棄物の削減に努めています。特に、適正な製造計画を策定し、綿密な在庫コントロールを行うことで顧客ニーズを満たし、製品廃棄ロスを最小限に抑制することができています。

また、製造過程では発生した使用済み原材料をリサイクルしています。例えば、蔵王工場で製造している「爽健美茶」の工程で排出された茶がらは、蔵王酪農センターのナチュラルチーズ製造過程で出た乳清などを混合し、「蔵王爽清牛」の飼料(エコフィード*)として生まれ変わっています。2015年には、製造工程で排出された廃棄物の99.1%がリサイクルされており、8工場中4工場でリサイクル率100%を達成しました。

*食品残渣を利用した家畜の飼料のこと。飼料自給率向上の観点から農林水産省が積極的に推進している。



容器リサイクルへの取り組み

CCEJでは、清涼飲料業界の一員として、環境廃棄物の削減やリサイクル率の向上に努めています。業界団体と協働して、リサイクルの大切さを消費者のみなさまに知ってもらうとともに、行政や地方自治体、顧客そしてリサイクル業者などと容器包装リサイクル法に準拠し、リサイクル促進に取り組んでいます。これらの取り組みにより、近年の飲料の空容器リサイクル率は高水準で維持されています。

私たちは、自動販売機の横にある空容器回収ボックスで回収された空容器を自社のリサイクル施設または各地域のリサイクル会社で材質別に分別し、再資源化しています。リサイクル会社に対して、適切に処理が行われているかなど現場視察を定期的に行っています。

私たちはこれからもステークホルダーのみなさまと一丸となって、廃棄物の削減と限られた資源の再利用化に努めます。

国内で販売された容器の素材別リサイクル率(2014年度) (最新のデータに基づく)



PETボトル

(出典：PETボトルリサイクル推進協議会)

82.6%



スチール缶

(出典：スチール缶リサイクル協会)

92.0%



アルミ缶

(出典：アルミ缶リサイクル協会)

87.4%



ガラスびん

(出典：ガラスびん3R促進協議会)

69.8%



地域のみなさまとともに 健やかな社会を目指して

さまざまな団体と協働して、地域のみなさまをつなげる楽しいイベントや、ボランティア活動、教育の場を提供しています。

清掃ボランティア活動



コカ・コーラシステムが支援する特定非営利活動法人グリーンバードのスタッフといっしょに、CCEJの本社がある東京・赤坂で月2回、従業員が街の清掃ボランティア活動に参加しています。早朝の1時間程度、楽しく清掃活動をしなが、自分たちが働く街をきれいにしています。

担当者の声



長島 美紀

コカ・コーラ・イースト・ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーション
コミュニティ・リレーション部

「清掃ボランティア」は、誰でも気軽にできる、楽しい社会貢献活動の一つです。早朝の街を散策する気分で、近隣企業や地域のみなさまとコミュニケーションをとりながら活動することにも大きな意義があります。さらに業務以外での従業員同士の結びつきにも一役買っていますね。ひとまわりしてきた後に集まるごみの量は、毎回驚くほどです。地道な活動ですが、いつの日か、「探してもなかったね!」と言える日がくることを願っています。

次世代を担う子どもたちへの活動支援

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団では、経済的理由で進学困難である優秀な人材の育成を支援するため、奨学金を給付しています。1966年に開始した当奨学金事業は、当社エリア内において、これまでに909人の卒業生を輩出しています(2016年3月現在)。

●卒業生

909人



スポーツイベントの支援

CCEJでは、地域のみなさまをつなげるためのさまざまなスポーツイベントを支援しています。ママさんバレーボール大会はCCEJエリアの12県で大会協賛を行っています。会場では水分補給セミナーなど、飲料を通じた正しい水分補給の方法を知ってもらうとともに、ここでしか出会えないママさんたちのつながりの場を提供しています。また、さまざまなマラソン大会をサポートしており、「静岡マラソン」は、1979年より長きにわたって協賛をしている地域に根ざした大会となっています。CCEJの従業員ランナーなども参加し大会をより一層盛り上げ、地域のみなさまとの結びつきを大切にしています。



ママさんバレーボール大会の様子

静岡マラソン(2013年までの大会名は「静岡駿府マラソン」)



工場見学



CCEJは、工場見学を地域のみなさまと触れ合える貴重な機会と考え、多摩(東京都)、東海(愛知県)、蔵王(宮城県)の3工場で実施しています。製品が製造される工程を実際にご覧いただくとともに、製品の品質と安全性を高める取り組みや、製品をつくるために使った水を自然に還す取り組みなどをご紹介します。また、コカ・コーラ社製品を

より多くのみなさまに親しんでいただくために「コカ・コーラ」の誕生秘話や歴史についても楽しくお伝えしています。2015年は56,000人のお客様に会場いただきました。

●2015年工場見学者数

56,000人

工場見学のご予約は本誌の最終ページをご覧ください

東海工場



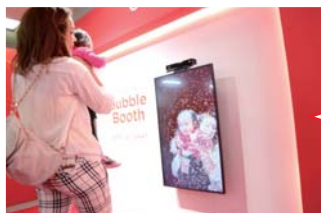
楽しく学べる体験型プログラムを刷新

あらゆる世代の方々に、「コカ・コーラ」のこと、CCEJのことをよりよく知っていただきたいと考え、2016年4月に工場見学を通して楽しく学べる体験型プログラムを導入しました。



日本初!! ポップカルチャー・フォトコーナー

アトランタのワールドオブコカ・コーラでも人気のフォトコーナー。日本では東海工場でしか体験できません。



バブルブース

まるで自分が炭酸飲料の泡の中にいるようなシュワシュワ感を体感できます。



ボトルマッチ

日本のコカ・コーラ工場見学初となるタブレットを活用したボトル並べ替えクイズです。



バーチャルプラントツアー

見学ラインからは見ることができないエリアも含めた製造工程をスローモーション映像で見ることができます。



環境への取り組み

水資源保護やCO₂の削減、空容器のリサイクルなど環境負荷軽減への取り組みに対する理解を深めていただけるよう工夫しています。

多摩工場



蔵王工場



工場見学 サマースクール開催

2015年から、夏休み限定の特別プログラム「夏休み親子で学ぼう!工場見学サマースクール」を開催しました。製造ラインの見学をはじめ、コカ・コーラシステムが採用している世界共通の厳しい品質基準や知っているようで知らない飲料の豆知識、水分補給の大切さなどを楽しみながら学んでいただきました。2015年は、約700人のご家族に参加いただきました。





特 集

自動販売機を通じた社会貢献

いつでも、どこでも、誰にでも、おいしい飲料を手にすることができる自動販売機の利便性を活かし、環境保全や社会貢献のための寄付、災害時の地域のみなさまへの製品供給などの支援、そして日本人のみならず外国人のみなさまへの情報提供などに取り組んでいます。

自治体との災害協定による清涼飲料の優先供給

CCEJでは、エリア内の自治体との協議のもと災害協定を進めています。これは有事が発生した際、優先的な清涼飲料水の提供や情報発信を行うなど、行政・自治体をサポートするものです。また、災害協定をもとに、災害時に電光掲示板で災害関連情報を

掲出し、遠隔操作や手動によって機内在庫を無償で提供できる、災害対応型自動販売機の設置も進めています。

身近な場所で、情報発信をお手伝い



吉田 高治

コカ・コーライーストジャパン株式会社
コマーシャル
ペンディング統括部

港区様に提案した災害対応自動販売機は、電子ペーパーサイネージ機能を活用し、災害時のみならずタイムリーな情報を区民のみなさまに発信するものです。電力供給がストップした後も72時間にわたって情報発信ができ、遠隔操作によって無償で飲料製品を提供することが可能です。数カ月の実証実験期間を経て、現在、区役所および区内の公園等で12台が稼働しています。

東京都港区では、災害時に区民のみなさまの安全な生活が守られるよう、これまでホームページやツイッター、フェイスブック、電子メール等での情報発信を行ってきました。さらに、東日本大震災等の教訓を踏まえ、屋外での災害時の情報発信力を強化するため、超省電力型の電子ペーパーサイネージを活用した情報発信について検討してきました。

そこに、CCEJ社より、自動販売機の活用をご提案いただき、災害時だけでなく平常時においても、効果的・効率的に区の情報を発信できるようになっただけでなく、災害時に無償で飲み物を提供いただくインフラが整備できました。

今後は、2020年にむけて、国内外から訪れる多くのみなさまに、安全で安心して過ごしていただけるよう区内全域に広く情報発信する仕組みを整えていきたいと思っています。



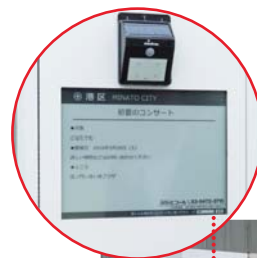
新宮 弘章様

港区 企画経営部 区長室長



本城 典子様

港区 企画経営部 区長室広報係 副係長



自動販売機のリサイクルボックスの上に取り付けられた電子ペーパーサイネージ

芝公園に設置された自動販売機

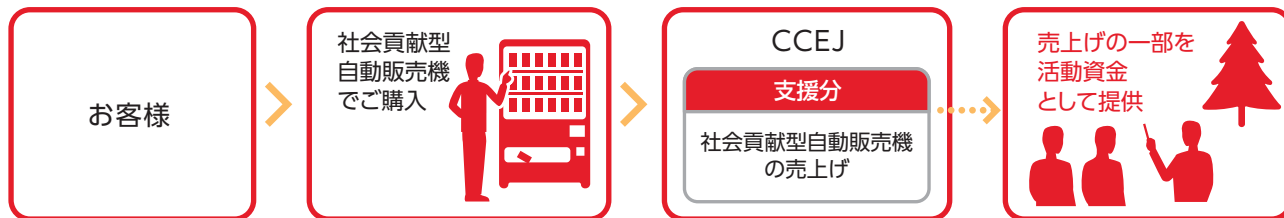


自動販売機を活用した取り組み

CCEJでは、自動販売機を設置させていただいているお取引様と協働で、自動販売機の売上金の一部を社会貢献活動や環境

保全活動を行っている団体などに寄付する取り組みを展開しています。

■ 社会貢献型自動販売機の仕組み



愛知県新城市八束穂の道の駅「もっくる新城」に設置した自動販売機には、知的障がいがある人たちが描いたイラストが使われています。「もっくる新城」を設計された建築家の鵜飼哲矢先生が、障がい者のアート作品を企業の広告グッズなどに使うよう働きかける全国的なプロジェクト「だんだんボックス」の推進者であったことから、この自動販売機は実現しました。イラストを描いたのは、新城市の障害者福祉サービス事業所「レインボーはうす」に通う10代から60代の方々です。普段から美術に親しみ、今回はシカやイノシシ、ウシなどの動物を描いていただきました。自由な発想と個性的な色使い、デザインは高い評価を受けています。自動販売機の売上金の一部は、レインボーはうすの活動資金として寄付されます。障がいがありながらも素晴らしい才能を持つ地元の人たちの作品を発表し、その収益で自立をサポートすることで、障がい者の方々と社会をつなげていくお手伝いができればと思います。今後もだんだんボックス様といっしょに、この素晴らしい取り組みを広めていきたいと考えています。



軍司 明

コカ・コーリーストジャパン株式会社
コマーシャル
ペンディング統括部

障がい者のアート作品を自動販売機のデザインに



山下 善伸様

一般社団法人
だんだんボックス
アドバイザー

「もっくる新城」に設置された自動販売機を見て、障がい者にアーティストとしての自立の道を拓く大きな可能性を感じました。作者だけでなく、ご家族や親せき、お友だちの方々も設置先を訪れ、口々に「うれしい」「よかった」と話していたのが印象的でした。あるご家族の方は、「これまで本人は一般社会との関わりがなかったが、自動販売機を通じて社会とのつながりができ、将来への希望が湧いてきました」と話していました。

マルチ言語対応自動販売機を展開

CCEJは、東京都23区の駅や空港、あるいは観光地など、外国人のお客様の多いエリアを中心に、マルチ言語対応自動販売機の設置を進めています。自動販売機での飲料の買い方をイラストで説明した外国語のステッカーを貼るなど、多くの言語に対応することで、誰にとってもわかりやすく、親しみやすい自動販売機を展開していきます。



自動販売機での飲料の買い方を説明したステッカー



「もっくる新城」に設置された自動販売機



特 集

震災から5年、東北地方の復興にむけて

地域に根ざしたボトラー社として、被災者や被災地域にうるおいを届けたい、
その思いを胸にこれからも復興支援に取り組んでいきます。
震災から5年、これまで私たちが行ってきた復興支援活動をご紹介します。



● がれき撤去作業

旧仙台コカ・コーラボトリングの創業50周年を機に、約**380人**の従業員が、宮城県七ヶ浜町で、がれき撤去作業または水資源保護活動を行いました。



ザ コカ・コーラ カンパニーがグローバルに取り組む「国際海岸清掃活動」と連動して、宮城県七ヶ浜町で、日本コカ・コーラと合同で海岸および田畑のがれき撤去支援活動を実施しました。

● 飲料提供

震災発生直後から自治体などの要請や救済が必要な地域への支援として**約46万本**(500ml換算)の飲料提供をはじめ、宮城県蔵王町の蔵王工場の井水を飲用水として、蔵王町、消防団、自衛隊に計75トン提供しました。



● 農業・漁業支援

約2週間にわたり宮城県の従業員**220人**が、海から流れたり、断層のずれで生じた大きな石を農地から撤去する作業、めかぶ削ぎや生わかめの計量作業の手伝いを行い、農業・漁業での人手不足をサポートしました。



● 売 上金の一部を復興に役立てていただく

NPO法人などと協働で、売上金の一部を寄付する取り組みを続けています。

● 「やさしい軟水 アクアボナ」の売上金の一部を寄付

蔵王工場で製造し、宮城県・福島県・山形県で販売している「やさしい軟水 アクアボナ」の売上金の一部を「東日本大震災みやぎこども育英募金」「東日本大震災ふくしまこども寄附金」に寄付しています。

「やさしい軟水 アクアボナ」
2L PETボトル



● 寄付型自動販売機の設置

宮城県を中心にCCEJエリア内で32台が稼働しています。



茨城県常総市復興ボランティアに、 コカ・コーラシステムから総勢**120人**が参加

2015年11月、関東・東北豪雨災害で甚大な浸水被害を受けた茨城県常総市で、120人がごみを拾うボランティア活動を行いました。日本コカ・コーラならびにCCEJの従業員のほか、コカ・コーラシステムと関係のあるNPOやサプライヤーの方々

なども参加。まだ稲穂が刈られていない田に入り、表面にあるものや土に埋まっている金属片、プラスチック片、木片などを拾い、その総計は約1.5トンにも及びました。



参加者の声

「何かできることをしたい!」と思った矢先にこの活動のことを知りました。CCEJでは、環境保全に取り組んでいるため、水害によるがれき撤去などの手伝いは地域のみなさまを手助けする一番の方法だと思いました。また、清掃後、講演会の会場で直接お客様から感謝のお言葉をいただき、うれしかったです。稲田でのごみ拾いがこんなにも大変なんだと驚きましたが、またボランティア活動に参加したいです。

復興に対して義援金を出すことも大切ですが、実際に被災地に足を運んで活動することにも大きな意義があると、避難所でお会いした方々の笑顔を見て、強く感じました。また、荒れた田んぼの中で泥まみれになって活動する経営陣の姿を見て、「格好いいなあ」と感じました。



熊本地震の被災者に、物資を提供

熊本地震で被災された方々にむけて、CCEJは名古屋オフィスで備蓄していたアルファ米を支援団体へ寄贈しました。

CCEJでは、熊本地震により被災されたみなさまの一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。



CCEJが寄贈した備蓄米が
倉庫に到着し、積み荷卸しをする現地スタッフ



働きがいのある職場づくり

従業員一人ひとりがCCEJグループの一員であることに誇りを持ち、
ビジネススキル能力開発支援などを通じて、自らの意志でビジネスを成功に導き、
安全かつ健全な働き方が実現できる職場づくりに努めています。

人事方針

CCEJグループでは、明確な人事方針を定め、職務体系、報酬・福利厚生、評価、就業環境、人材マネジメント／能力・キャリア開発の制度を段階的に整えています。

例えば、評価制度は、何(what)を達成したかという業績と、業績を達成するためにどのような行動をとったのか(how)を評価し、処遇につなげるものです。

今後も、従業員が継続的にパフォーマンスを発揮し、それに対して会社が適切に報いる取り組みを推し進めていきます。



人事方針の詳細はウェブサイトでご覧いただけます。
<https://www.ccej.co.jp/sustainability/employee/policy.html>

健全な労使関係

Best One企業を目指すために、会社と労働組合の協働は重要であり、労使協議会や労使懇談会などを通じて課題解決に取り組んでいます。お互いに成長を促し合い、健全な労使関係の構築を目指しています。

ビジネス現場での能力開発を支援

CCEJではスペシャリストの育成を主軸とした教育方針をとっています。また、現場での能力開発を重視しており、どの部門も共通して7割を職務を通じて、2割をOJTや現場でのコーチング、1割を座学や集団研修などのトレーニングによるものを目指しています。特に「営業」「サプライチェーン」には専門の人材開発部門を置き、必要な能力に合わせた研修プログラムを開発しています。

2016年は、昨年同様、全社共通の教育プログラムとして各階層別研修、英語教育「ACE」を実施するほか、7月より全従業員にむけた教育機会として「Knowledge Mall」(通信教育)をスタートしました。オンライン英会話や職能別のプログラム、資格対策講座など約150コースを用意し、従業員の能力開発をサポートしています。

● 従業員数の状況(連結) (2015年12月31日現在)

従業員数*	男性	8,996人
	女性	2,273人
平均年齢	41.03歳	
平均勤続年数	16.3年	
管理職任用者数	1,120人	
女性管理職任用者数	45人	
女性一般職任用者数	722人	
育児休業制度利用者数(累計)	男性	3人
	女性	51人
非正規雇用からの社員登用者数(2015年通年)	210人	
定年退職者再雇用者数	60人	
介護休業取得者数	2人	

※従業員数は正社員、臨時従業員を含む。



また、キャリア開発制度である「キャリアプラン」「ディベロップメントプラン」も導入し、従業員のキャリアデザインのサポートも強化していきます。CCEJは従業員の多様なキャリアを尊重し、キャリアロードマップを支援する仕組みを整えていきます。

安全な職場と効率的な働き方をサポート

CCEJグループでは、中央安全衛生委員会を設置し、「危険ゼロ職場の確立」「心と身体の健康増進」「快適な職場環境づくり」を推進しています。危険有害性への理解を促進し、安全先取りの基礎をつくる安全衛生教育を行い、事故の未然防止に努めています。同時に、ワークライフバランスの充実へむけ、有給休暇取得を推進しています。さらに、メンタルヘルスの支援を目的とした教育も強化し、従業員が自分の心とむき合う機会を提供することで、心身ともに安心して働くことができる職場としてのインフラ向上に力を入れています。

サプライチェーン本部においては、これらの活動により、2015

年の労働災害発生率が前年比約28%減少しました。

私たちは今後も職場安全へむけた取り組みを継続していきます。



勤務時間に関する意識改革を図る「社内啓発ポスター」

職場安全トレーニングとセーフティーアセスメント

● 社内トレーナーの育成

労働安全衛生法に基づいて実施している職長教育と特別教育の社内トレーナーを育成し、労働災害を未然に防ぐ活動を展開しています。

- 職長教育:現場で作業をしている従業員を直接指導、または監督する“職長”へのトレーニング。
- 特別教育:労働安全衛生法に基づき、危険または有害な業務に従業員に従事させる前に実施する安全教育トレーニング。

● セーフティーアセスメントの実施

全拠点の責任者と労働安全衛生担当者が協働で従前の安全衛生活動を振り返るとともに、危険箇所の抽出、および早期は正により、働きがいと誇りを感じる安全な職場環境の構築に取り組んでいます。

生産性の高い文化を醸成するOE活動

CCEJグループは、日々の業務を見直し、継続的な改善を行っていく人材の育成を通じて、生産性の高い企業文化の醸成に取り組んでいます。

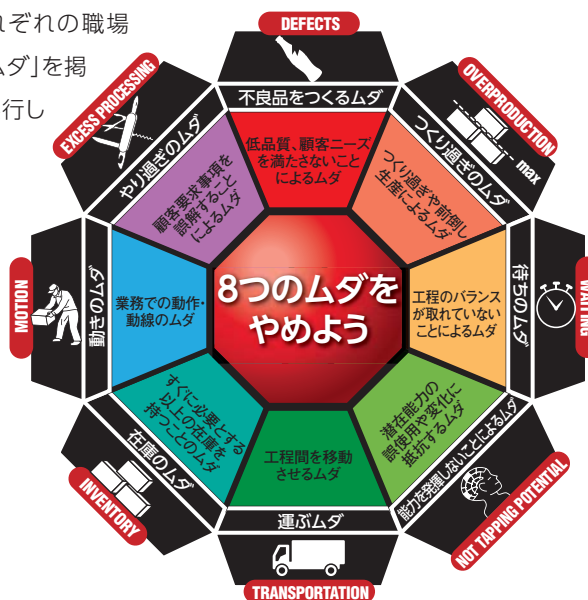
2013年にサプライチェーン本部製造部門からスタートしたOE(Operational Excellence)活動は、現在、CCEJグループ全体に浸透しています。それぞれの職場において、改善項目「8つのムダ」を掲げ、徹底的なムダの排除を実行しています。

年に一度開催される改善活動表彰「OE活動発表会」では、各部門で実行した改善活動の成果を共有し、業務の標準化を図っています。

サプライチェーン本部の重点アクションの一つであるI-cardは、従業員が日常的に行っている「個人改善提案」であり、知恵・知見を

蓄積し、成功事例を社内に広げていくものです。

2014年に本格導入を図り、2015年には51,600件と前年の約10倍の提出数にまでおよび、重点活動の一つとして定着しています。



● I-card提出件数





誰もが輝ける会社を目指して

多様な経歴や知見を持つ人財は、私たちのビジネスをさらなる成功へと導いてくれます。

従業員とマネジメントのダイレクトコミュニケーション

CCEJでは、オープンコミュニケーションを実現するために、従業員が社長をはじめとしたマネジメントと相互に意見や情報交換を行うダイレクトコミュニケーションを推進しています。経営層に近いリーダーたちが集まり、会社の戦略や方向性の理解を深めるタウンホールミーティングや、カジュアルな雰囲気ですらと対話を行うカフェミーティングなどを開催しています。

現状の課題共有や今後どのように改善していくべきかなど、参加者が主体となりオープンな意見交換を図っています。ミーティングであがった課題は解決の打ち手へとつなげています。



タウンホールミーティング



カフェミーティング

コミュニケーションアンケートで従業員の声を反映

CCEJでは、多種多様な業務を行っている従業員に対して、効率的かつ効果的に社内の情報を届けるため、コミュニケーションアンケートを実施しています。

コミュニケーションアンケートの結果をもとに、新たなコミュニケーションツールの開発や従業員満足度の向上を追求しています。

新しいコミュニケーションツール

2016年から紙の社内報を四半期ごとに発行しています。社内のみならず、国内外のベストプラクティスにフォーカスすることに加え、CCEJや清涼飲料業界について外部の視点を取り入れた記事も掲載しています。また、全従業員が重要な社内情報を確実に得るツールとして「Monthly Topics」を発行しています。さらに、社内イントラネットサイト「OnePress」をリニューアル。従業員が必要な情報にすぐにアクセスできる使いやすいツールになりました。

社内報に寄せられた従業員の声

- 海外の成功事例など初めての情報で興味深い
- さまざまな地域で働く従業員の表情が見えてよかった
- 社外の方のCCEJに対する意見や考えが参考になる



社内報



Monthly Topics



社内イントラネットサイト「OnePress」(ワンプレス)

ダイバーシティへの取り組み



「従業員が働きがいと誇りを感じるBest One企業」を目指し、Growing(成長) Opportunities(機会) by Leading(主導) in Diversity(多様性)の頭文字をとった全社プロジェクト「GOLD」の活動は、2016年で3年目を迎えます。GOLDは女性の活躍推進に重点を置くとともに、意識改革(女性・管理職)、女性社員のパイプライン強化、インフラの整備を中心に取り組んでいます。

います。

過去2年間で、女性社員を対象にしたフォーラム、女性管理職フォーラム、職場座談会を計10回開催するなど、延べ約1,500人の社員がGOLDの活動に参加しました。

2016年は、女性の活躍を推進するだけでなく、男性社員にもフォーカスし、イクメンロールモデルの紹介、育児休暇取得の促進などに取り組んでいます。



2020年にあるべき姿

採用

採用候補者のうち
少なくとも
50%が女性

就労

社員の
20%が女性

育成

100人の女性
マネジャー

ワークライフ バランス

子どもが生まれる
男性社員の100%が
育児休暇を取得

世界のコカ・コーラの仲間とつながる

CCEJでは、世界のコカ・コーラシステムの成功事例を中心とした情報交換はもちろん、海外の仲間との交流を積極的に図っています。業務を通じて文化的な交流やコミュニケーションを図ることを目的に、過去2年間で40人以上の従業員をドイツのボトラー社に派遣しました。ドイツでは現地の営業担当者といっしょに活動を行い、それぞれのマーケットやビジネススタイルの違いなどを学び肌で感じたことで、多くの知見を得てきました。

さらに、2016年にはCCEJ従業員が海外ボトラー社へ初めて短期赴任しました。これらの交流を通して、CCEJのスタイルを世界のコカ・コーラシステムと共有するだけでなく、新しい学びや視点を持ち帰る絶好の機会であると考えています。

今後もさらに多くの従業員へこのような活躍の場を広げていきます。

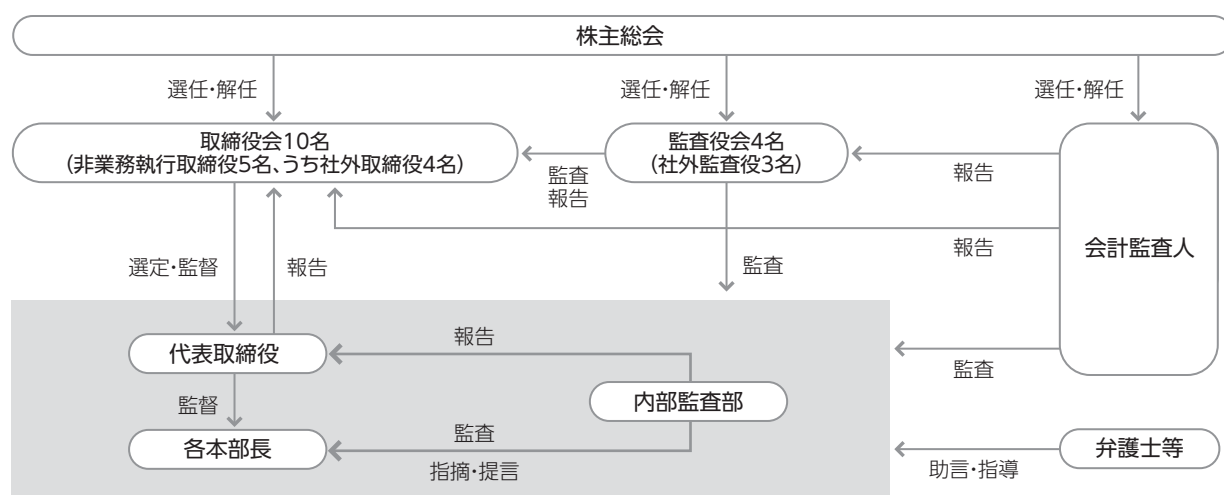


マネジメント体制

■ コーポレート・ガバナンス

CCEJは、コーポレート・ガバナンスの継続的強化を経営上の重要課題としてとらえており、監査役制度をベースに独立役員の要件を満たす社外取締役、社外監査役の選任や社外役員を中心とする非常勤取締役による取締役会の諮問機関であるガバナンス委員会を設置し、経営監督機能の強化を図り、実効性のあるコーポレート・ガバナンス体制の構築に取り組んでいます。

■ コーポレート・ガバナンス体制



■ 社外取締役並びに社外監査役の独立性

CCEJの社外取締役は4名であり、また社外監査役は3名です。その豊富な経験と高い識見をCCEJの経営に役立てるために選任しており、中立かつ客観的観点から当社の経営上有用な発言等を行っております。また、社外取締役2名および社外監査役2名は、東京証券取引所が定める独立役員としての要件を満たしております。

■ 内部統制の仕組み

内部統制については、取締役会による内部統制システムに関わる基本方針の決定に基づき、経営者は内部統制を整備する義務があり、代表取締役の主導のもと、各本部が所管する業務に関わる内部統制が法令および社内規程に準拠し、有効的に整備・運用されているか監査およびモニタリングを行っています。

内部監査部は代表取締役をはじめ経営陣に対する報告・助言、および監査役会・ガバナンス委員会に対して報告を行う立場にあり、独立的な立場を確保できる体制を構築しています。また、内容および重要度に応じて各種委員会へ報告し、監査上発見された問題に対する透明性の確保を図っております。

会計上の諸問題については、会計監査人と連携を図る体制を整えています。

■ 倫理・コンプライアンス

当社は、企業の社会的役割や責任を果たし、社会とともに持続的に発展する企業であり続けるために、従業員一人ひとりが誠実に行動するための基本事項を定めた「事業運営規範」を制定し、倫理・コンプライアンスを重視する社風の促進を図っています。

当期(2015年)においては事業運営規範の理解促進を図るため全従業員を対象にeラーニングによる教育を実施しております。また、倫理・コンプライアンス委員会を定期的に開催し、啓発教育活動の施策決定、再発防止策の検討策定など諸活動を推進しており、当期においては4回開催しております。また、所属長を対象に、独占禁止法や贈収賄防止に関わる専門研修を実施し、グループ全体のレベルアップを図っております。なお、企業活動の中で各種法令や事業運営規範等に抵触するような事項および判断が困難な事項等に早期に対処できるように、専用メールや電話により直接相談を受け付ける「倫理・コンプライアンス相談窓口」を、社内および社外の弁護士事務所に設置するなど体制を整えています。

■ リスクマネジメント

当社は、全社的なリスクマネジメントの核として、

1. リスクの事前予防のため、潜在的なリスクの発現可能性を低減させる「エンタープライズリスクマネジメント(ERM)」
2. リスクが発生した後の迅速な対応を実行するため、顕在化したリスクの影響を低減させる「インシデント・マネジメント & クライシス・レゾリューション(IMCR)」
3. 災害又は事故発生を想定して、従業員の健康・安全および会社の資産・財産の保護を目的とした「エマージェンシー・プランニング(EP)」
4. 重要な事業の中断・阻害に対応し、予め定められたレベルに回復・復旧するように導く「事業継続計画(BCP)」の仕組みを構築・運用しています。

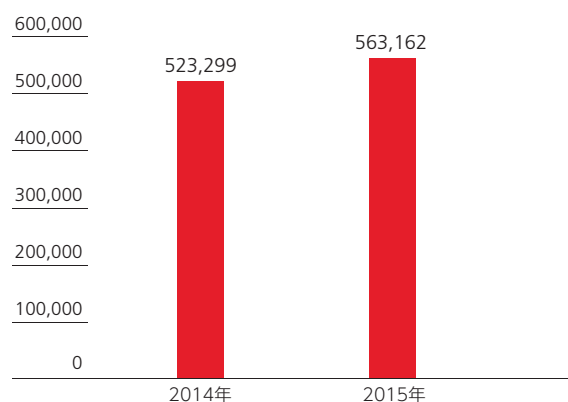
各々の項目については取締役会等と連動し、関連する部署、管理職、従業員および取引先が自律的にリスクマネジメントを運用することができるよう、コミュニケーション、教育訓練、手順・ルール・基準の改善、必要な経営資源の投入等を順次計画し、実行しています。

■ 情報セキュリティ

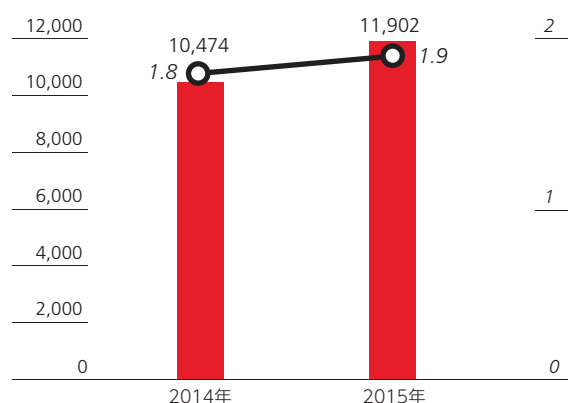
当社グループは情報化社会に対応するため、情報セキュリティに関する基本ルールとして「情報セキュリティポリシー」を定め、情報危機等の管理体制を整えています。その対策においては、セキュリティ対策ソフトの導入のほか、社員研修による教育・指導を行い、情報漏えいの防止対策に努めています。また、個人情報保護の重要性からプライバシーポリシー策定のもと、個人情報保護規程を定め、研修等による教育を実施し、個人情報の適切な管理に努めています。

財務情報

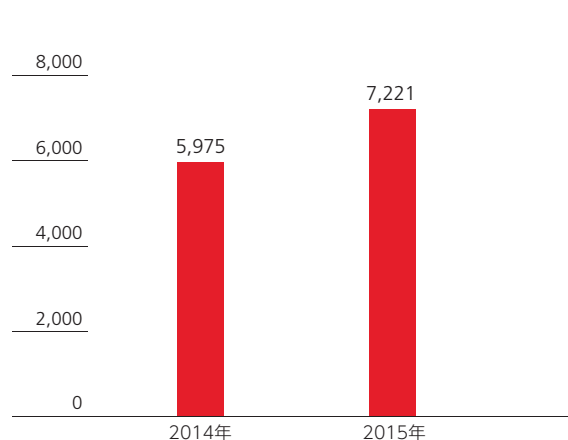
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)
※比較可能ベース



当期純利益 (百万円)

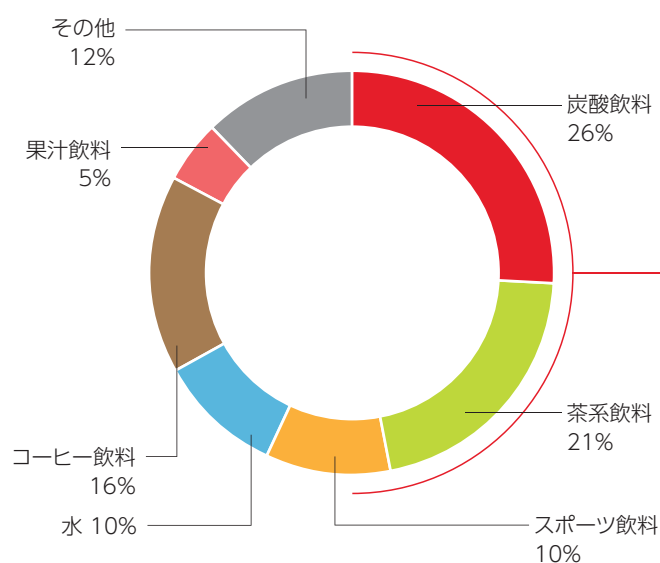


業績の詳細はIRサイトをご覧ください。
<http://investor-jp.ccej.co.jp/>

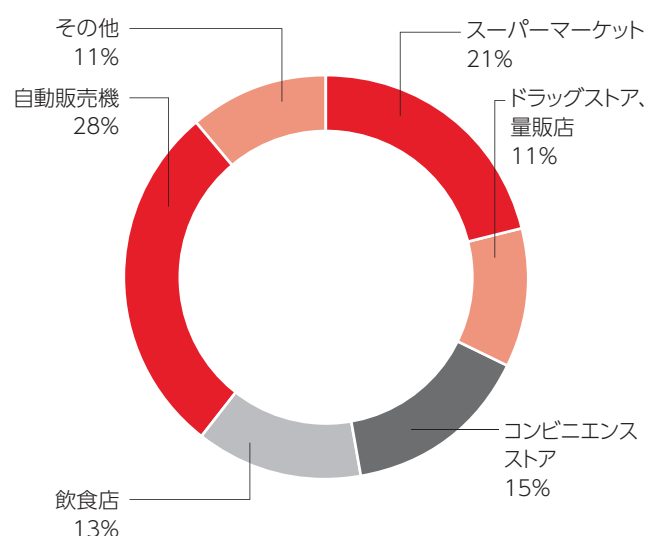
製品情報

CCEJでは、世界中で愛されている「コカ・コーラ」をはじめ、みなさまに親しまれている「ジョージア」「アクエリアス」「ファンタ」「爽健美茶」「綾鷹」「い・ろ・は・す」など、50を超える清涼飲料水ブランドをさまざまなパッケージでお届けしています。

カテゴリー別販売数量比率 (2015年)



チャネル別販売数量比率 (2015年)



主 な製品ラインナップ

■ 炭酸飲料



■ コーヒー飲料



■ スポーツ飲料



■ 茶系飲料



■ 果汁飲料



■ 水



■ フレーバーウォーター



■ 乳性飲料



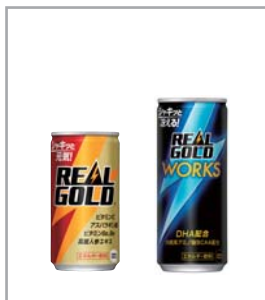
■ アクティブスタイル飲料



■ 機能性表示食品



■ エネルギー飲料



COCA-COLA、コカ・コーラ、COCA-COLA ZERO、コカ・コーラ ゼロ、GEORGIA、ジョージア、爽健美茶、そうけんびちや、からだすこやか茶、綾鷹、あやたか、つむぎ、KOCHAKADEN、紅茶花伝、太陽のマテ茶、AQUARIUS、アクエリアス、AQUARIUS ZERO、アクエリアス ゼロ、FANTA、ファンタ、SPRITE、スプライト、REAL GOLD、リアルゴールド、Qoo、クー、MINUTE MAID、ミニッツメイド、I LOHAS、いーろは・す、YOGUR STAND、ヨーグルスタンド、ヨーグルジー、yoguruthie、WORKS、ワークス、は、The Coca-Cola Companyの登録商標です。

CANADADRY、カナダドライ、Schweppes、シュウェッps、は、Atlantic Industriesの登録商標です。

Glaceau、グラソー、は、Energy Brands Inc.の登録商標です。
©The Coca-Cola Company

Coca-Cola East Japan

工場見学のご案内

無料!

コカ・コーラ誕生のエピソードや
コカ・コーラの歴史、CCEJの環境
への取り組みをご紹介します。と
ともに、製造ラインを見学いただけ
ます。
ご予約は各工場へお電話ください。
みなさまのご来場をお待ちして
おります。



工場見学のご案内ウェブサイト

事前のご予約が必要です

<http://www.ccej.co.jp/plant/>

トップページ > イベント > 工場見学

CCEJ 工場見学

で、検索



多摩工場



所在地 東京都東久留米市野火止1-2-9

- ・西武池袋線 清瀬駅南口から西武バス
(武蔵小金井駅 前沢宿経由)にて約8分「東久留米総合高校」下車
- ・西武池袋線 東久留米駅西口から西武バス
(武蔵小金井駅 錦城高校経由)にて約8分「八幡町1丁目」下車

受付電話 042-471-0463

(9:00~17:00 土日・工場休業日を除く)

東海工場



所在地 愛知県東海市南柴田町トの割266-18

- ・名鉄常滑線 名和駅下車徒歩20分
- ・国道247号線(西知多産業道路)二の割交差点を西へ200m
- ・最寄インター: 名古屋高速 笠寺IC、伊勢湾岸自動車道 東海IC

受付電話 052-602-0413

(9:00~17:00 土日・工場休業日を除く)

蔵王工場



所在地 宮城県刈田郡蔵王町宮字南川添1-1

- ・JR東北本線 大河原駅からタクシーにて約15分
- ・JR東北本線 白石駅からタクシーにて約20分
- ・東北自動車道 白石インターから約10分

受付電話 0224-32-3505

(9:00~17:00 土日・工場休業日を除く)

本レポートに関するお問い合わせ先

コカ・コーラ・イーストジャパン株式会社

コーポレート・コミュニケーション本部 サスティナビリティーマネジメント部

〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町3-13-6 Tel. 045-620-8187

<http://www.ccej.co.jp/>

© 2016 Coca-Cola East Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.